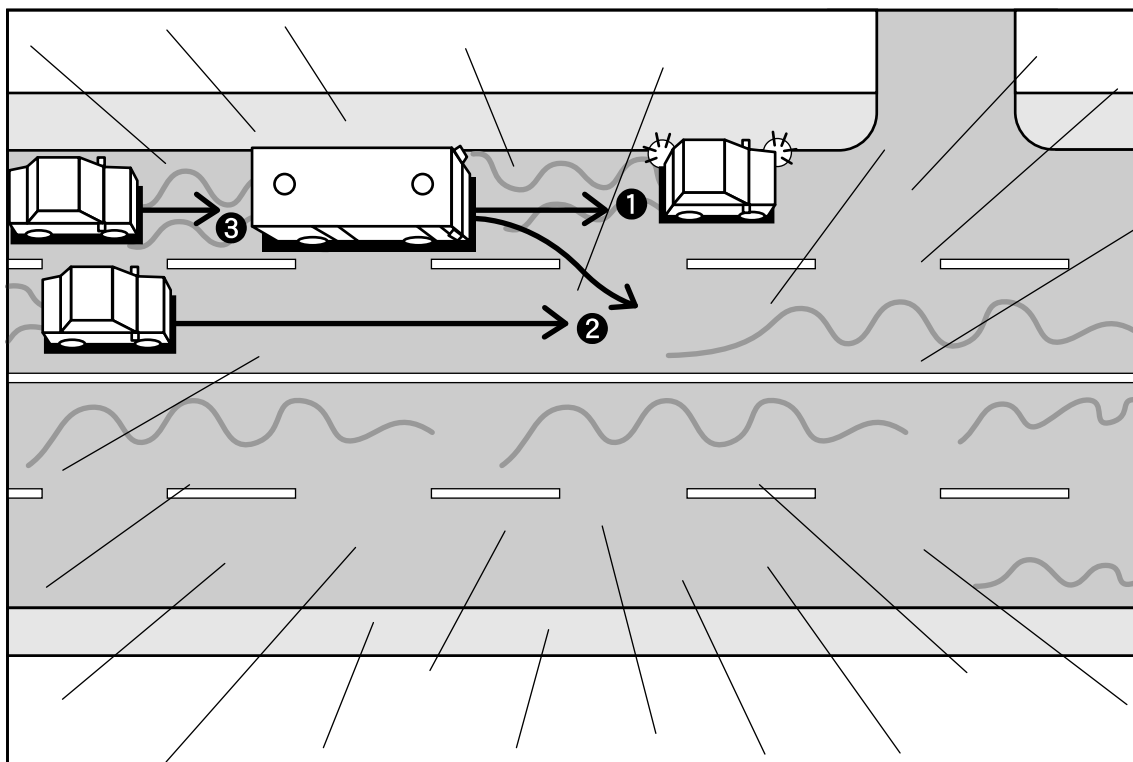


〔バス5〕雨天時の走行



1. 主な危険要因の例

- ① 左折のために減速や停止をした前車に気づくのがおくれると、前車に追突する危険がある。
- ② 前車との追突を避けようと右側に進路変更すると、後続車と接触する危険がある。
- ③ 急停止すると、後続車に追突される危険がある。

2. 安全運転の例

- ① 前車との車間距離を十分保持して走行する。特に雨天時は停止距離も長くなるので、いつもより長い車間距離を保持する。
- ② 前車がいつ減速や停止するかわからないので、常に前車の動向に注意して走行する。
- ③ 進路変更をするときは、必ず後続車の確認をする。

3. 乗務員指導のポイント

- ① 次のような雨天時の安全運行の基本を理解させる。
 - ・濡れた路面では停止距離が長くなるので、いつもより長い車間距離を保持するとともに、スピードも落として走行する。
 - ・急ハンドルや急ブレーキはスリップの原因となるので、そのような操作を必要としない慎重な運転をする。
- ② 雨天時はミラーが水滴で見えにくくなるので、進路変更等をするときは、特に注意して後続車の有無を確認し見落としのないよう指導する。